

発掘だより

しろいずみせき 城泉遺跡 (東かがわ市白鳥町)

城泉遺跡は国道 11 号大内白鳥バイパスの建設に伴って、平成 23 年度から断続的に発掘調査を行っています。昨年度までの調査で古墳時代前～中期のたてあなたてものぐん 竪穴建物群からなる集落跡などが見つっています。

今回の調査では、古墳時代の掘立柱建物跡や子持勾玉や白玉などが見つかりました。掘立柱建物とは地面に穴を掘って、そこに柱を据え付け、屋根を架ける建物です。

子持勾玉とは古墳時代中期から飛鳥時代にかけてマツリで使われた道具で、大きな勾玉の背・腹・側面に背中合わせの子勾玉を伴います。このような特殊な形状から、勾玉のもつ靈力を高めるため、小さな勾玉をいくつも加えたとも考えられています。白玉は子持勾玉と同じく古墳時代のマツリの道具です。

城泉遺跡では平成 23 年度の発掘調査でも、白玉が出土しています。また、当時のマツリ道具として、他にも勾玉形石製品・けんがたもくせいひん 剣形木製品・せきせいぼうすいしゃ 石製紡錘車などが見つっています。

さらに城泉遺跡の西側に隣接する田中遺跡では、当時のマツリの道具であることしがたせきせいひん 琴柱形石製品が見つっています。このように城泉遺跡の近隣では、様々な道具を使ってマツリが行われていた様子がわかってきました。



▲ 白玉



▲ 子持勾玉



▲ 沖南遺跡



▲ 高松市茶白山古墳 鉄製品

展示のご紹介

第3回 令和3年度 四国地区埋蔵文化財センター 発掘へんろ展

四国の風土と暮らし —山から四国を眺めてみた—

日時：9月26日(日)～12月12日(日)

場所：香川県埋蔵文化財センター 第2展示室

9時～17時

観覧料：無料

休館日：土・日・祝日は休館

9月26日(日)・11月6日(土)・12月12日(日)は開館

四国は平野が少なく海岸部まで山が迫り、実に75%の面積を山が占めています。

このような風土に暮らしてきた先人たちは山の恵みをうまく暮らしに取り入れてきました。また、峠や尾根を通過して、人やモノが動き、文化の交流が行われてきました。

今回の展示では、長い歴史のなかで、山とともに歩んできた四国の人々の暮らしについて、最新の発見と研究成果から紹介します。



香川県埋蔵文化財センター

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

tel. 0877-48-2191 fax. 0877-48-3249



一部通行止めがあります
詳しくはホームページをご覧ください

いにしへの

讃岐

香川県埋蔵文化財センター情報誌

NO.107

高松市茶臼山古墳出土鉄器の 保存処理事業が完了しました

高松市茶臼山古墳は高松平野東部の久米山丘陵の山頂部に築かれた古墳時代前期前半（4世紀前半）の前方後円墳です。昭和44年に香川県教育委員会が主体となり、発掘調査を実施しました。調査の結果、学術的な重要性が明らかになり、昭和45年に香川県指定史跡に指定されました。古墳は復元整備され、保存されています。

発掘調査の結果、全長72m、後円部径36mの前方後円墳で、後円部には2基の埋葬施設（主体部）があることがわかりました。古墳時代前期前半（4世紀前半）の瀬戸内海沿岸の古墳の中で墳丘規模は最大規模です。後円部は前方部と比べると大型で、前方部はバチ形に開き、低平で隆起があまりないなど、香川県の古墳時代前期前半の中でも古い特徴をもちます。

後円部で見つかった埋葬施設はいずれも竪穴式石室です。第1主体部は後円部のほぼ中央に作られていました。石室は板状の安山岩を入念に積み上げて壁体を作り、その上に板石や柱状の天井石で蓋をしていました。第2主体部は第1主体部よりもあとに作られました。第1主体部と比べると大きな塊石を用いて壁体を作っています。

高松市周辺でほぼ同じ時期に作られた古墳には石清尾山古墳群があります。石清尾山古墳群は在地色が強い古墳群ですが、それに対して高松市茶臼山古墳は竪穴式石室の規模や構造など近畿的な要素が強く、大和政権の強い関与が想定されます。

副葬品

後円部の2基の主体部からは多数の副葬品が出土しました。第1主体部からは2体の人骨とともに鍬形石2点、鏡1点、鉄剣2点、鉄刀1点、ヤリ1点、管玉1点、ガラス玉15点以上、土器片などが出土しました。第2主体部からは鉄剣1点、大型鉄鏃様鉄器1点、鉄鏃4点、鉄斧1点、ヤリガンナ2点、ガラス小玉4点など多量の副葬品が出土しました。

これらの中で鉄製品については一部にサビが進行し、保存状態の悪化が危惧されたため、朝日新聞文化財団の文化財保護活動助成により鉄器9点の保存処理を行い（表紙写真）、令和3年3月に事業が完了しました。香川県埋蔵文化財センター第2展示室で行われている「香川県埋蔵文化財センター発掘調査速報展—令和2年度の調査—」では、保存処理の終了した鉄器9点を展示しています。



▲ 高松市茶臼山古墳 墳丘の調査



▲ 高松市茶臼山古墳 第1主体部・第2主体部天井石検出状況
写真手前が第2主体部、奥が第1主体部



▲ 高松市茶臼山古墳 第1・第2主体部石室壁体検出状況（天井石除去後）
写真手前が第1主体部

展示のご紹介

香川県埋蔵文化財センター第2展示室 テーマ展

発掘調査速報展—令和2年度の調査—

日時：7月16日（金）～9月14日（火）

※土・日・祝日は休館

場所：香川県埋蔵文化財センター 第2展示室

観覧料：無料

この展示では香川県埋蔵文化財センターが令和2年度に調査した6遺跡（丸亀市の岡遠田遺跡^{おかとおだいせき}や沖南遺跡^{おきみなみせき}、坂出市の青海神社下遺跡^{おうみじんじやしもいせき}、東かがわ市の城泉遺跡^{かみちいけひがしせき}、高松市の上道池東遺跡^{なかもいせき}、東かがわ市の中山遺跡^{なかもいせき}）の発掘調査成果などについてご紹介します。

中山遺跡（東かがわ市土居）



▲ 中山遺跡 上層（鎌倉時代から江戸時代）の河川跡 北西から
中山遺跡は、東かがわ市の西端に位置し、二級河川古川の河岸段丘上に位置しています。古代から江戸時代はじめごろの河川跡、江戸時代の水路跡・ため池跡・土坑跡・井戸跡・畑の鋤溝跡などが見つかりました。

河川跡は古代から江戸時代初めごろのもので、調査地の南側を流れる古川の前身と考えられます。

この河川跡も江戸時代になると現在の場所に流れを変え、埋没した河川跡の上には水路やため池などが作られ、田畑として利用されるようになったことがわかりました。

上道池東遺跡（高松市香西町池内）



▲ 上道池東遺跡 江戸時代の水路跡と耕作の痕跡 北から
上道池東遺跡は台地の間にある谷地形の部分に位置しています。県道円座香南線建設に伴って発掘調査が行われ、古代（7世紀末）の須恵器や、江戸時代後半の多数の柱穴跡、水田・畑に伴う耕作痕跡などが見つかりました。

出土した飛鳥時代の須恵器の中には別の個体が融着したものや、生焼けのものがありました。この遺跡では窯跡は見つかりませんでした。遺跡周辺には音谷池窯跡群^{おんだにいけ}などの数多くの須恵器窯跡があります。この付近は江戸時代の開発で土地が削られ、平坦にされていることから、この周辺にかつては須恵器窯跡があったと考えられます。

青海神社下遺跡（坂出市青海町）

青海神社下遺跡では、鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物跡や柵跡・溝跡・柱穴跡などが見つかり、多数の土師質土器・須恵器・瓦質土器などが出土しました。この中には青海神社下遺跡から約8km離れた高松市国分寺町の楠井窯跡で生産された瓦質土器も含まれていました。

青海神社下遺跡が位置する谷の北の丘陵南斜面には縄文時代の六林池東遺跡^{むつばやしけがし}や中村古墳、南の丘陵北斜面には鎌倉時代に成立したと考えられる青海神社（祭神は崇徳上皇）がありますが、丘陵に挟まれた谷では遺跡の存在は知られていませんでした。青海神社下遺跡の調査によってこの谷に住んでいた人々の暮らしの一端が初めてわかってきました。

青海神社下遺跡 写真左は県道高松坂出線（通称さめき浜街道）西北から

